

展示会出展を軸としたデザイン活動による学生教育の実践研究

A PRACTICAL RESEARCH ON EDUCATIONAL EFFECT OF DESIGN TEAM ACTIVITIES THAT BASED ON PARTICIPATING IN EXHIBITIONS

田頭 章徳 デザイン学部プロダクトデザイン学科 助教
 見明 暢 デザイン学部プロダクトデザイン学科 助教
 馬場田 研吾 デザイン学部プロダクトデザイン学科 実習助手
 松本 雄樹 デザイン学部プロダクトデザイン学科 実習助手
 佐久間 華 大学院芸術工学研究科 助手
 久慈 達也 デザイン学部ビジュアルデザイン学科 非常勤講師

Akinori TAGASHIRA Department of Product Design, School of Design, Assistant Professor
 Nobu MIAKE Department of Product Design, School of Design, Assistant Professor
 Kengo BABATA Department of Product Design, School of Design, Assistant
 Yuki MATSUMOTO Department of Product Design, School of Design, Assistant
 Hana SAKUMA Graduate School of Arts and Design, Assistant
 Tatsuya KUJI Department of Visual Design, School of Design, Lecturer

要旨

デザインチーム”DESIGN SOIL”は、”epilogue – prologue”というテーマで Salone Satellite と TIDE EXHIBITION に2年連続で出展を果たした。また、昨年度発表した学生作品が、TIDE EXHIBITION での展示をきっかけに、フランスの展示会の出展作品に選定される等、展示会出展を通して世界的な評価を獲得する事ができた。

展示会の出展とそこに至るプロセスを通して、学生たちは高いハードルに対して果敢に挑み、努力してハードルを乗り越えていった。ミラノ・サローネ後に大学内で行った展示会を学生主体で作上げる際に、展示会出展を含む DESIGN SOIL の活動で得た知識や経験を遺憾なく発揮した。また、DESIGN SOIL の学生メンバーはプロダクトデザイン学科の卒展展示に際して中心的な役割を担い、展示デザイン、会期中の運営や搬入・搬出のオペレーションに至るまで、展示会全体を高い質で作上げてくれ、DESIGN SOIL の活動が教育的に高い意義がある事を確認する事ができた。

今後は、大学全体の教育に還元する活動にも力を入れ、大学のデザイン教育の向上に寄与できる活動としていきたい。

Summary

A design team “DESIGN SOIL” participated in Salone Satellite and TIDE EXHIBITION for the second consecutive year with the theme “epilogue – prologue”. And a student work was selected for an exhibition in France because of showing at TIDE EXHIBITION. DESIGN SOIL is regarded with worldwide esteem like this.

Student members of DESIGN SOIL risked failure in order to pursue a higher goal and got over the tasks in an effort. They showed their experience that they got through DESIGN SOIL activities including participating exhibitions when they design an exhibition at the university.

There is more to it. They took the central role in graduate exhibition of Dept. of Product Design. Display configuration, operation and arrangement of preparation or installation, they made all of which high quality. It proved that the activities of DESIGN SOIL have enormous significance in education.

In the future, we plan the activities to make it more effective for a university education by making a strong effort to return our fruits to a university.

1) 目的

2010年に研究メンバーおよび選抜学生で組織したデザインチーム「DESIGN SOIL」の、Milano Salone（ミラノサローネ）を始めとした国内外の展示会出展などの活動を通じて、参加学生の成長、さらには大学全体の活性化を計るための教育方法論を見いだすことを目的とする。本稿では、昨年度に引き続き活動を行っている DESIGN SOIL の 2012 年度の活動を通じた成果と、学生への教育効果をまとめ、次年以降に繋げる為の考察を行う。

2) DESIGN SOIL について

DESIGN SOIL は、2010年6月に本研究メンバーを中心に立ち上げたデザインチームである。DESIGN SOIL では、教員と学生が等しくチームを作り上げるメンバーとして、ともに出展に耐えうる質の高いデザインを追い求めていく中で、指導する、されるという通常の大学カリキュラムの枠では得られない質と教育効果を狙う。

DESIGN SOIL では、実習授業や他のプロジェクトとは異なり、即商品化が可能なレベルまでデザインを詰めていくことや、大学名を冠せずに、プロのデザイナーが集まる世界最高峰の選抜展に、学生としてではなくプロのデザイナーとして出展を行うこと、展示会場では、学生としてではなくプロのデザイナーとしての振る舞いを要求することを特徴としている。

3) 2012年ミラノサローネ出展テーマについて

2012年4月に、ミラノサローネ本会場内で開催される、若手デザイナーの選抜展、“Salone Satellite”（サローネ・サテリテ）に出展したコレクションのテーマは、“epilogue-prologue”とした。

“epilogue”は「終章」であり、“prologue”は「序章」である。ひとつの物語の終わりが、次の物語の始まりとなるように、モノの終わりを熟慮することから発想をしていくことを意図した。捨てられるはずのものに別の役割を与えること、成長や変化に合わせて形や役割を変えること、あるいは何気ない日常の記憶を留め置くことで、単に分別廃棄することやリサイクルマテリアルを使う等のアプロー

チではなく、愛着を持ってモノを使う仕掛けを通して、人とモノの関係性に新たなページを書き添えることをイメージしてテーマを設定した。

多くのものを使い捨てる生活が日常となっている今だからこそ、そうではない価値を見据えたいと考えた。人とモノとの関係が短命に終わらず、機能と一緒に記憶も引き継ぐことができれば、新たな物語のプロローグを書き始めることができる。人の記憶に寄り添いながら、永く付き合うことができる製品は、結果的に生産の減少へとつながる、という意識で家具を提案した。また、モノの人のとの関係を見つめ直す上で、ささいな「終わり」と「始まり」の連続である「日常」における発見を大切にすることが重要と考え、日々の記憶を留め置くことができる小物もあわせて提案した。

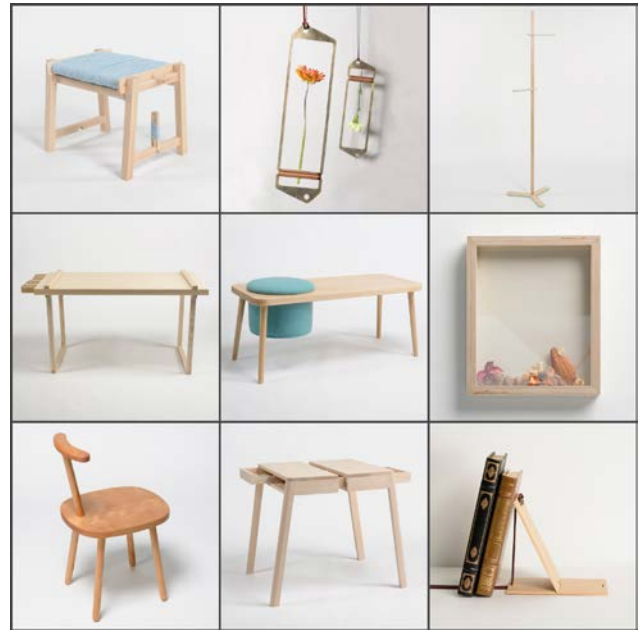


写真 1) 2012年4月の Salone Satellite で発表した “epilogue-prologue” コレクションの全作品。

4) 出展展示会の内容と成果

2012年4月17日から22日まで開催されたミラノサローネにおいて、Salone Satellite に2年連続の出展を果たした。その後、2012年10月20日から28日まで、大阪の中之島デザインミュージアム（de_sign_de）で開催された Living & Design 展のサテライト展示であるリノベーション展へ出展、2012年10月31日から11月4日ま

で開催された DESIGNTIDE TOKYO2012 における選抜展、TIDE EXHIBITION には、昨年度に引き続き2年連続で出展するという快挙を成し遂げた。

昨年度に引き続き、世界各国の様々なメディアの注目を集め、多数の媒体に情報が掲載された。中でも、非常に感度の高い韓国のデザイン誌 "MARU" 127号では、6ページにわたって全作品を詳細に紹介される等、世界に認められるコレクションとなった。



写真2) 2012年4月の Salone Satellite 展示風景。



写真3) 2012年10月の TIDE EXHIBITION 展示風景。

2012年9月には、昨年度の Salone Satellite で発表した学生作品が、フランスの権威あるデザイン誌、ELLE DECORATION の25周年を記念した展示会の出展作品として選ばれ、約半年にわたってフランス国内を巡回した。この展示会のキュレーターは、2011年の TIDE EXHIBITION でこの作品を見て出展作品に選んだとのことで、展示会出展がきっかけで生まれた成果であり、

DESIGN SOIL の活動と作品の、成功事例のひとつと言える。



写真4) パリの Musée d'Art Moderne de la ville de Paris で開催された ELLE DECORATION 主催の Generation/DESIGN 展における DESIGN SOIL 学生作品の展示風景。

5) 展示会を通じた学生の成長

Salone Satellite 展示ブースでは、昨年に引き続き、学生たちが主体となって、来場者に対して積極的なプレゼンテーションを行った（写真5）。メンバーの学生たちは、決して英語が得意ではないが、英語で会話をせざるを得ない状況におかれ、必死に会話を繰り返していく中で、会期中に作品の説明や簡単な質問への受け答え等ができるようになっていった。また、教員も含めてメンバー全員が慌ただしく動く中で、だんだん自発的に行動をすることが増え、チームが円滑に活動できるようになっていった。この事実は、学生の意見やレベルに合わせてハードルを下げるのではなく、学生たちがモチベーションを上げるきっかけとなる目標を提示する事で、彼らは高いハードルを超えていく事ができるという、当たり前の事を示す事例であると言えるのではないか。



写真5) Salone Satellite 展示ブースで、来場者に英語で解説をする学生。

2012年7月、ミラノ・サローネに出展した作品を学内で展示する機会を設けた。これは、学内での成果報告の一環であるが、もうひとつの重要な目的として、ミラノでの展示会を経験した上で、学生たちに「自分たちだけで展示会を作り上げてもらう」という課題を課す事があった。

ミラノでの展示は、本研究メンバーが主体となって展示構成等を行っていた。このプロセスを見て、実際にその空間での展示会を体験した上で、学生たちが考えて展示を作り上げた。作品のレイアウト、視線のコントロール、照明のバランス、ポスターや配布資料の作成、会期中の会場運営に至るまで、学生たちがデザインし、実践し、質の高い展示会を作り上げた。



写真6) 学生メンバーが作り上げた、学内での展示会風景。

この時に中心的な役割を担った4回生のメンバーたちは、2013年2月の本学卒展において、プロダクトデザイ

ン学科の展示デザイン、展示会運営に中心的に関わった。卒展の展示空間のデザイン、会期中の運営だけに留まらず、展示台製作等の準備や、搬入・搬出に至るまで、非常に質の高い卒展になったのは、DESIGN SOILのメンバーとして質の高い展示会を経験し、その経験を通して考え、展示会を作る実践を行っていた事が大きく影響していると考えられる。



写真7) 卒展2013のプロダクトデザイン学科ブース展示風景。

6) まとめ

教員と学生が、一緒に世界最高水準を目指して挑戦することを通して、メンバーとして参加している学生たちは必死になって努力し、成長して、DESIGN SOILの活動だけに留まらず、他のプロジェクトや活動でもその成果を発揮することができるということが確認できた。

一方で2012年度は、DESIGN SOILの成果を大学全体の教育に還元するという、もうひとつの活動を十分に行う事ができたとは言いがたい。次年度は、DESIGN SOILの活動の幅と質を向上させるとともに、大学全体に還元する活動にも力を入れて、教育の質を上げていきたい。